

看護科学専攻博士前期課程の修了生の皆様へ

10名の修了生の皆様、優れた研究成果をあげ、本日看護科学の修士の学位を得られたことに対し、心からお祝い申し上げます。またご家族並びに諸先生、関係の皆様にお祝いとともに、これまで学生を見守り支援し、励まし続けてくださいましたことに対し感謝申し上げます。

本来ならば、皆様の修了式で直接お目にかかって饒の言葉を申し上げるべきところですが、新型コロナウイルスの世界的な流行、感染拡大防止のため修了式の規模を縮小しています。私どもも大変残念に思うと同時に、早く終息に向かうことを心から願っております。しかし、今年の新型コロナウイルスの世界的なパンデミックで日本の公衆衛生観が世界に注目されています。我が国の素晴らしい医療システムや看護について、世界に発信していくことが期待されていると実感しています。

さて、平成時代に大きく様変わりした看護学教育は、高等教育機関での教育が当たり前になりました。また年間3000人近い人が修士課程に入学し、勉学・研究に励んでおり、研究を学んでいる看護職者がこんなに多くいることは、看護界にとっては嬉しくもあり、頼もしく感じております。

修了生の皆様は、この2年間、研究に取り組むにあって、文献検索・分析に始まり、テーマの決定、研究計画審査、データ収集、分析過程での統計処理、論文作成と、それぞれの段階における研究プロセスは、試行錯誤をしながら、一步一步進めるのは大変だったのではないのでしょうか。しかし同時に確実に進めることの大切さも気づかれたと思います。また、研究の方法や理論を理解していることと、実際、自分で研究を進めることでは大きな違いがあることも、実感なされたことでしょうか。このような研究のプロセスを学び、どのくらい「研究力」は身についたのでしょうか。苦勞し、努力し、経験し、納得できたことは、必ずや身につけていることと思います。このようにして身につけた研究力は、修了生の皆様が、研究者としての出発点に立ったということの意味しています。修了生の皆様、今後も自分の研究課題をもち、継続して研究されることを望み、期待しております。

修士課程のめざすところは、研究の方法を学び、そのプロセスをたどることはもちろんですが、ひとりひとりのこれまでの看護体験を振り返り、看護を深め、追究し新しい知見を見いだすことにあります。皆様の研究課題の多くは、今の看護実践における身近な問題を解決したり、看護への示唆に富んだものでした。これらの研究で得られた知見を、病に悩む日々を送られている対象者の生活の質を健康に向けて向上させるために役立ててほしいと思っております。また、それぞれの得られた成果を、看護実践の現場で生かし、皆様ひとりひとりが、看護改革の推進者になられることを望んでおります。

今、看護行為を見ると、エビデンスに基づいた看護の提供と言いつつ、まだエビデンスが明確になっていない行為も多いように思っています。エビデンスのある看護を実践するためにも身につけた研究力を生かして欲しいと思います。

皆様はこの筑波大学博士前期課程に在籍している間、研究のプロセスのみならず、学際的な

環境の中で様々な刺激を受け、学修されたことと思います。そして修士論文を作成する過程で、看護を科学的に考え、論理的に看護を展開する力を養ったと思います。先ほども述べましたが、修士課程を修了するという事は一人の研究者として自立して歩み始めることを意味しています。自分の力で立ち、他者に依存せず自分で研究を行うということです。皆様にはここで学んだことを生かし、その先には日本の看護の質を高めることや、看護界を牽引し、リーダーとして活躍して欲しいと思っています。そしてさらに世界に向けて飛躍して欲しいと思います。

よく言われることですが、「継続は力なり」です。研究は、継続するところに意味があると考えます。継続するためには、まず今回の修士論文で得られた知見から発展させ、自分なりのテーマを持ち、それを追求し、研究を継続して行って欲しいと思っています。小さなことでも毎日継続することは難しいと言われており、継続することは、多くの努力と苦勞を伴いますが、それが必ず皆様の力になると思います。これが自分なりに進むべき方向に向かって創意工夫と判断をするという、皆様のキャリアアップにもつながると思います。また、皆様が研究を継続することによって、看護の質の向上、患者様の健康生活に寄与することになると思います。

大学院を修了した皆さんは、それぞれの場で、学びを十分に発揮していただくと共に、周囲の人から意見を求められたり、期待されることも大きいと思います。その際、謙虚に学び、一つの課題に真摯にとり組む姿勢も、忘れずにいて欲しいと思います。

看護科学修士の学位を得られた皆さんが、日本の看護の発展に寄与し、これからの看護職者のリーダーとして活躍されることを祈念してお祝いの言葉とします。

令和2年3月25日
看護科学専攻長 森 千鶴